

dプログラムの新ミューズに 広瀬すずを起用

資生堂

資生堂ジャパンは1月14日、「dプログラム新ミューズ就任発表会」を表参道ヒルズにて開催した。当日は、資生堂ジャパンプレミアムブランド事業本部スキンケアマーケティング部dプログラムジャパングループdプログラムジャパンブランドマネージャー河合有起氏が、国内敏感肌スキンケア市場とdプログラムのブランドフィロソフィーについて説明した後、新たにdプログラムのミューズに就任した広瀬すずをゲストに迎え、日々の生活スタイルやスキンケア方法、2020年になりたい肌、なりたいたい自分についてトークショーを行った。

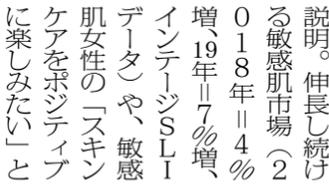
主催者を代表して挨拶 ことや、その成果としていうインサイトの変化を踏まえ、dプログラムが「肌を守る(defense)」だけでなく、「肌を育てる(develop)」で、今回の発表会ではピンク色を意識した」とコメントした。

河合氏は、1971-1997年に「dプログラム」が誕生し、リニューアル(2008年)医療部外品、2016年「肌を育てる」を育む「develop」で、理想の肌になりたい肌を導くブランドへと進化していることを伝えた。

トークショーには、広瀬さんがピンク色のロングドレススタイルで登場。司会者より衣装のポイントを尋ねられると、「撮影時に寝不足や食生活の乱れがあると敏感肌になりそうだなと感じる」と明かした。広瀬さんは「高校生の時から、化粧品を『入るまで入る』とたくさん浸透させている」とこだわりを語った。



「ときどき敏感肌」から、なりたいたい肌へ。



「肌を育てる」を育む「develop」で、理想の肌になりたい肌を導くブランドへと進化していることを伝えた。

トークショーには、広瀬さんがピンク色のロングドレススタイルで登場。司会者より衣装のポイントを尋ねられると、「撮影時に寝不足や食生活の乱れがあると敏感肌になりそうだなと感じる」と明かした。広瀬さんは「高校生の時から、化粧品を『入るまで入る』とたくさん浸透させている」とこだわりを語った。

また、敏感肌のスキンケアとして「化粧水は何度もつける」と「洗いために肌を洗いたくない」という悩みを解決する「洗いために肌を洗いたくない」を大事にしていると話を、プライベートでは白い服を着ることが多いので、服の肌が目に行く綺麗さを理想とし、2020年は「きれいな服にも負けない肌を目標。綺麗な肌で新しい仕事に挑戦したい」と今後のやりたい自分像について力説した。

に忙しいのあまり肌荒れしてしまったり、色々なものを試す中でdプログラムに出会い、それから毎日のように使っている。私にとってdプログラムは救世主のような存在」と製品への思い入れが感じられるエピソードも披露した。



2020年『ときどき敏感肌』からきれいな肌になりたい! になりたいたい!



たしろ薬品 代表取締役社長 田代 正樹 氏



「お客様本位」ではなく、スタッフの負担軽減、店舗が行われている。店舗が少なくない。さらに、常連客に比べ新たな来店を促している。このほか、全店でアメリカ東海岸のリゾー

たしろ薬品は、1956年の創業以来、超広域型・首都圏ターミナルを主体に化粧品専門店を展開してきた。2013年には企業方向性に関する大幅な改革を行い、これまでの店舗から総合化粧品セレクトショップ「ザコスメティックテラス」へと刷新。各店

の立地やコンセプトに合わせたブランド化を図り、より高い顧客満足度を提供している。さらに昨年12月には、渋谷地区の再開発に合わせ開業した複合型商業施設「東急プラザ渋谷」の4階に「アザリア」の4階に「アザリア」を取り入れた新業態を「アザリア」へと刷新。各店

居心地の良さを重視した店舗づくりで気軽な来店促す

最後に、広瀬さんは「新しいCMとWeb動画を多くの人に見ていただけたい」とミューズ就任への想いと意気込みを語った。

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられています。本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。